



Look Beyond Yourself
自分を超えた眼を

1991-92年度国際ロータリーのテーマ



- 国際ロータリー会長 ラジェンドラ・K. サブー ●第2560地区ガバナー 橋本 力
- 会長——渡辺宏策 ●副会長——内山辰策 ●幹事——石橋育於 ●副幹事——外山雅也
- SAA——五十嵐力 ●副SAA——渋谷正一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 35-3477
FAX 32-7095

- 出席者会員数** 会員 76名中 57名
- 先々週出席率** 94.37% (前年同期 85.14%)
- 今日のお花** チューリップ
- ヴィジター** 三条南より 坂井範夫君、橋純一君、田辺吉洋君、金子六郎君
三条北より 山上茂夫君、平松利朗君
- ゲスト** 三条北クラブ 中條耕二殿
- 先週のメイクアップ** 3/16 三条南へ 高橋一夫君、堀川政雄君、渡辺勝利君、
齊藤弘文君、池田千秋君、五十嵐昭一君、
五十嵐力君、渋谷健一君
3/17 三条北へ 渋谷正一君、野村竹三郎君、渡辺喜彦君、
小林敬典君、藤田紘一君

幹事報告 石橋幹事

◎新津中央RCより

第39回県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会のご案内がとどいております。

とき 6月12日(金)

ところ 新津カントリークラブ

◎栗山ガバナーノミニ事務所より

1992～93年度国際ロータリーのテーマがとどいております。

「まことの幸福は人助けから」

◎桐去中央RCより チャーターナイト出席お礼状がとどいております。

ニコニコBOX ¥11,000

3月18日分

中條耕二 (三条北クラブ)

久しぶりに三条クラブにメーグプさせていただきます。

渡辺(宏)君 中条さん卓話ありがとうございます。

藤田(説)君 中条さんを歓迎して。

鈴木君 懸案でありました中国研修生の受入れが実りまして、41名が夫々の職場に就業致しました。

岩井君 年1回の確定申告もお陰様で13日に無事終わりました。今回は土地税制改正前の駆けこみ土地譲渡が多かったようです。

榎本君 来週は京都旅行に参りますので、休ませていただきます。

藤田君 ホームクラブ欠席が続きました。

平原(信)君 もと三条クラブの会員でした中条さんの卓話を期待しています。

卓話 「国際交流」

中条耕二殿

国際交流協会を作った原点と言いますが動機につきましては基本的には人、人材不足あるいは三条の産業が5年後、10年後、果してこのままでよいのかということで。零細の方々が段々少なくなっていくといった大変寂しいものになって来ています。今もそんな状況が増えていくと思っていますが、何とか方法はないだろうか、そういった事が一つの動機です。

別に中国でなくても良かったのですが、中国にとりあえず行ってみようと、昨年8月19日に行ってきた。熱烈歓迎でした。

三条の国際交流協会は民間主導型で何回か陳情を行い、三条市から100万円いただきました。加茂はいっぺんに500万円出すからやれと行って加茂市長の御命令で出来たのが、加茂市国際交流協会です。

燕はといいますと、燕は吉田町、弥彦村と一緒に寮を作りました。市長、吉田町長、



弥彦村長は率先に中国に行きました。中国から人を呼んで来る、そして寮は市で作る。こうゆうことでまったく違っています。果してどちらが良いか私には判りませんが、三条は会長の御指導をいただいたりあるいは、会議所の皆さんの御協力を賜りまして今の所、分散型と申しましょうか、分宿しています。41名来た人とは昨日話をしたのですが、字を書いても通じない、何を書いても通じないといった状況ですが暫くするとおそらくエリートが来ていますのでかなり覚えるのではないかと思います。したがって、三条市国際交流協会も漸く第一歩を踏み出したといった所です。

中国へ私は何回か行き、製鉄所を探しました。いずれも日本の技術援助で出来ている製鉄所です。私は社会資本がどの程度充実しているかどうか鉄の使用量で判断していますが、日本では1トン中国では50kg、日本の20/1の使用でまだまだ発展性があります。中国より日本の企業に来て欲しい、そして技術を教えてもらいたいとの話は有りますが中国どこまで教えて良いか大変難しい。全部教えてしまったら大変な国になると思うし又、技術援助も必要だろうし、この辺がこれから国際化時代と言われている中で大変なものと思われま。いずれにしても、三条の国際化は、いやおうなしで進んでおり、太田市には、1万人ぐらいの人が来ており、国際交流課を設けたり、国際交流センターを作ったりしていますが、犯罪も有り、又、習慣の違いもある。いずれにしても、国際交流は進んで行く中で、そうゆうノウハウを早く会得したほうが良いのでは、ないかということで国際交流協会がスタートした訳です。

大変雑把な卓話になりお許しいただきまして国際交流協会にお入りいただければ大変有難たいと思ひますし、又、皆さんから、こんな点を注意したらどうかと御指導いただければ大変有難たいと思ひます。

3月11日卓話

池上蒼江殿

書家 池上蒼江(号)氏 プロフィール

本名 池上 孝

現住所 新潟県西蒲原郡岩室村和納八区

TEL 0256-82-2700

役職 財団法人書壇院理事審査員

新潟県美術家連盟理事

新潟県書道協会理事

毎日書道協会理事

日本中国文化交流協会会員

1932年(昭和7年)10月 三条市にてお生れ

'51年 書家 江川蒼竹先生(新潟市)へ弟子入り



- '56年 日展入選
- '65年 書壇院展審査委員
- '67年 第一回個展開催 三条信用金庫 旧本店
- '76年 第二回 // 長崎屋 三条店
- '78年 日本書道家中団員として中国へ文化交流
- '88年 毎日書道展代表作家による「現代日本の書」毎日書道展40周年記念海外展出品
- '89年 第三回個展開催 現在に至る。

池上先生は、三条市にお生まれになり旧制三条中学を卒業後家業の木工業を手伝い傍ら学生時代に興味を覚えた書の勉強がしたくて、夜は新潟市の江川先生の処へ通い本格的に書の勉強をし、約1年半の指導を受けた後先生のアドバイスを時折受けながら独自で勉強、当時先生より蒼崖と云う号を載いたが後に蒼江と改め今日に至っている。

'88年の海外出品作品はヨーロッパ各地を2年にわたり巡回、同年ソビエト連邦（当時）にも1年にわたり作品が巡回、海外においても評価を得ているようです。

書に対しての先生の心構えとして『人生50年、50才の頃から常に死と云う事を意識して作品を創作している』。これは先生自身が常に今が最高のコンディションの気持ちで最高の時に最高の作品を遺す意識で創作しているのだと付け加えられました。

月平均7～8日間を作品創作に費やし、個展とは別に年間10回位の作品発表の場があるので選1点を出品するそうです、これが個展になると120～130点の作品を出品するとの事、そしてこの個展が自身の勉強の場であり向上の場でもあるそうです。

先生の場合、書道家ではなく書家と云う事で現在は、過日お話しのありました甲骨文字、図表文字、金文等中国古代文字を研究中で、'78年に中国へ渡りその後2回、計3回訪中文化交流を広げて来られました。無論、中国をこよなく愛されているのか中国の話しになると熱が入っているようです、中国の書は自然を相手として自然体で時代を経過していると感じているそうです。そして中国古代文字の研究と並行して、現在日本に使われている字を自由発想的な感覚で、これを如何に芸術、美術的に表現をするかをテーマに創作活動をされております。どうかお身体に留意されまして益々のご活躍をご祈念申し上げます。

3月25日例会 卓話 荻根沢隆雄会員

4月1日例会 クラブ創立記念例会 PM6:30～ 於 三条ロイヤルホテル

4月8日例会 卓話 長谷川有美会員
